平成２７年度滝沢市公共交通実態調査業務

報 告 書（ 概 要 版 ）

①滝沢市民アンケート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1～2
②大学生アンケート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
③企業アンケート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
④通院者アンケート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
⑤鉄道利用者アンケート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
⑥路線バス利用者アンケート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
⑦福祉バス利用者アンケート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
⑧まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

平成２８年２月

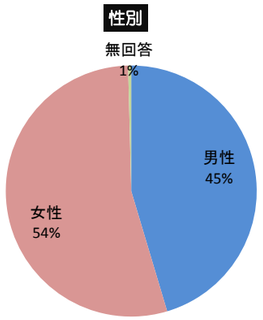
滝沢市 都市整備部 交通政策課

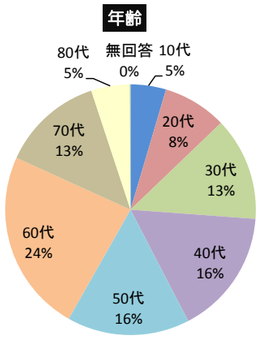
①滝沢市民アンケート

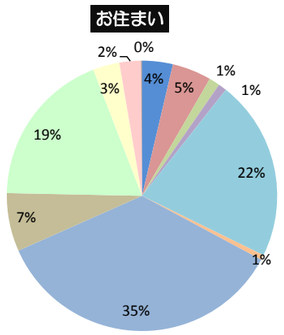
調査概要

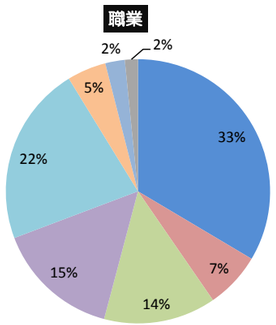
対象者	滝沢市が無作為抽出する 18 歳以上の滝沢市民
調査内容	日常の主たる行動目的とその交通手段、また、公共交通に対する考えや今後の公共交通利用のあり方などについてアンケートを実施する。
調査方法	選択肢(一部記述式)を記載した設問用紙への記入方式とする。 なお、調査票は無作為抽出者に 3 部送付し、本人と同居家族(高校生以上)を含め 3 名までの回答を依頼する。 郵送にて発送･回収する。
回収数	N=1,005 票

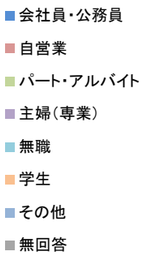
主な回答者属性

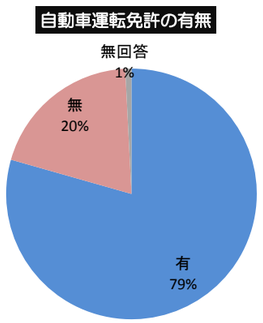


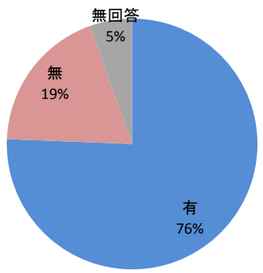


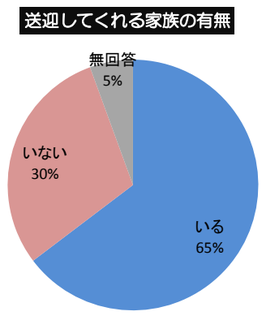






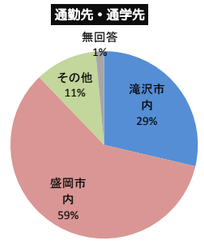


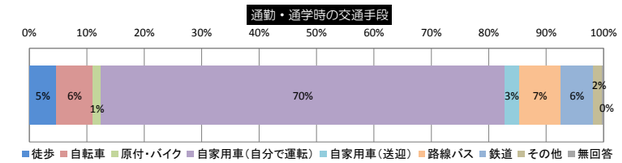


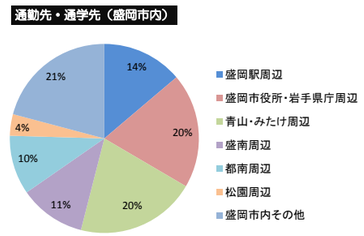


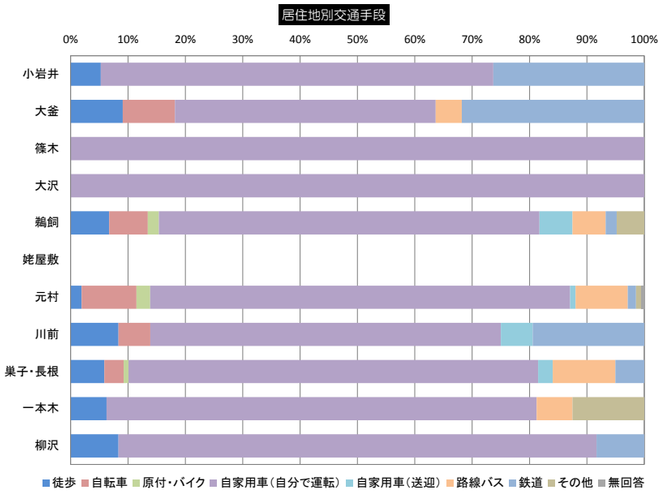
通勤･通学の状況

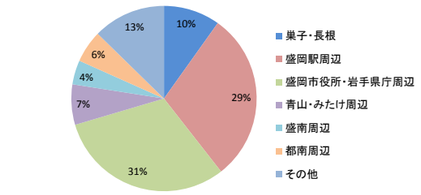
- 通勤または通学先の約６割が盛岡市内であり、そのうち盛岡駅周辺、盛岡市役所・岩手県庁周辺、青山・みたけ周辺が５割以上を占める。
- 通勤・通学時の交通手段は、「自家用車（自分で運転）」が最も多く、約７割を占める。公共交通（路線バス、鉄道）の利用者は全体の１割程度であり、その通勤先・通学先は「盛岡駅周辺」「盛岡市役所・岩手県庁周辺」が約６割を占める。
- 居住地別にみると、鉄道駅が立地する大釜、小岩井、川前地区では、鉄道の利用割合が比較的高い。また、路線バスの利用割合が高いのは、巣子・長根、元村地区である。





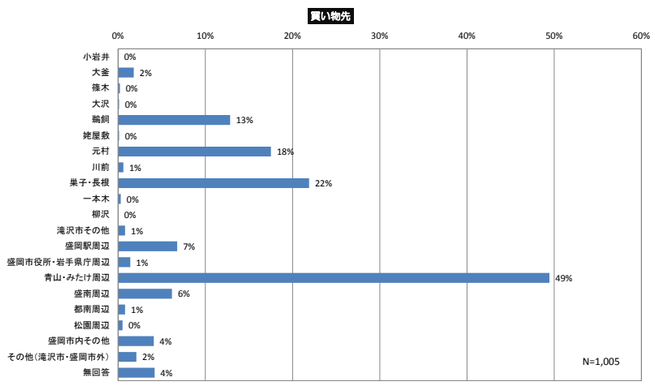


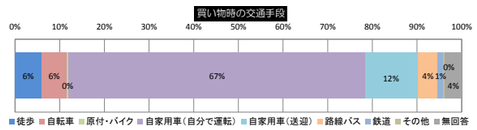


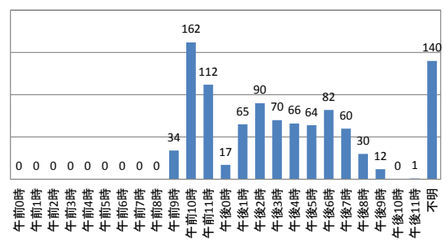


日常的な買い物の状況

- 全体の約半数が青山・みたけ周辺を買い物先としている。滝沢市内では、巣子・長根、元村、鵜飼地区に集中している。
- 買い物時の交通手段は、約８割が「自家用車（自分で運転、送迎含む）」である。
- 買い物に行く時間帯は、午前中～夜まで、一日に渡って広く分散している。





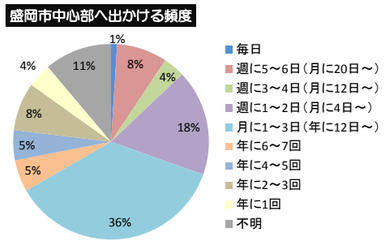


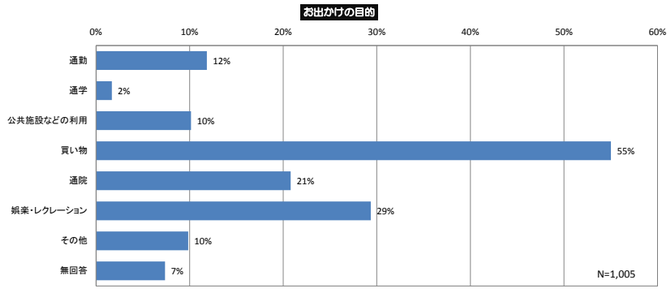
①滝沢市民アンケート

盛岡市中心部への移動の状況

頻度・目的

- 盛岡市中心部への移動は、「月に 1～3 日」が最も多く、次いで「週に 1～2 日」であり、半数以上が「買い物」目的である。

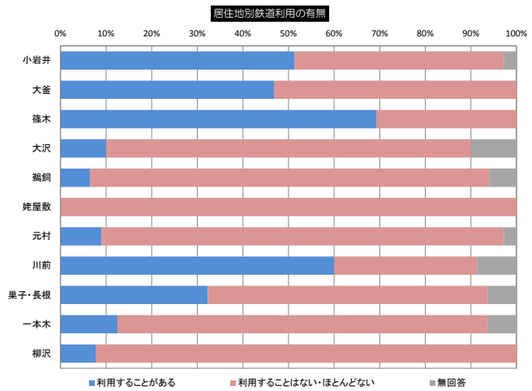


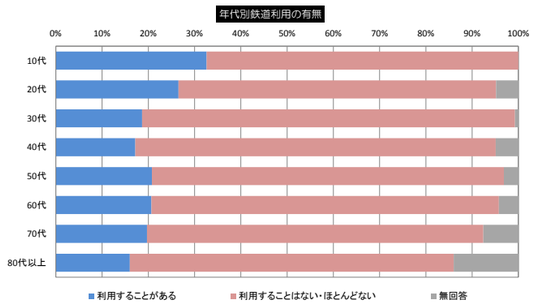


盛岡市中心部への鉄道利用について

鉄道利用の有無

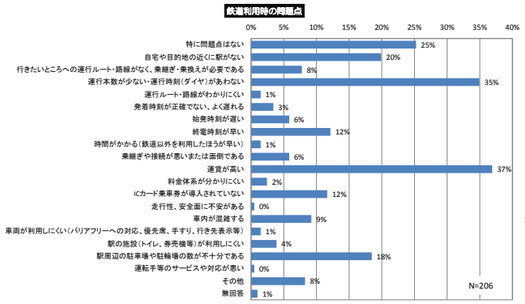
- 滝沢市～盛岡市中心部間の移動において鉄道を利用する人は全体の２割程度であるが、居住地区によって大きな差がみられる。
- 年代別にみると、10 代、20 代では鉄道の利用率が比較的高い。

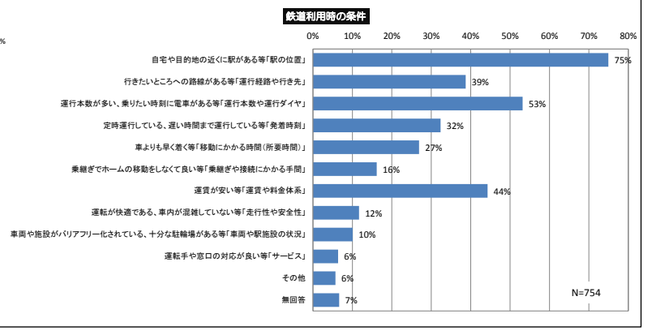




鉄道利用時の問題点・鉄道を利用していない人の利用条件

- 鉄道を利用している人の約４割が、「運賃」や「運行本数・運行時刻（ダイヤ）」に問題を感じている一方、約 25%（４人に一人）は特に問題点はないと感じている。
- 鉄道を利用していない人の約 75%が、「自宅や目的地の近くに駅があること」を鉄道利用の条件に挙げている。次いで、「運行本数や運行ダイヤ」、「運賃や料金体系」に関する条件が多い。

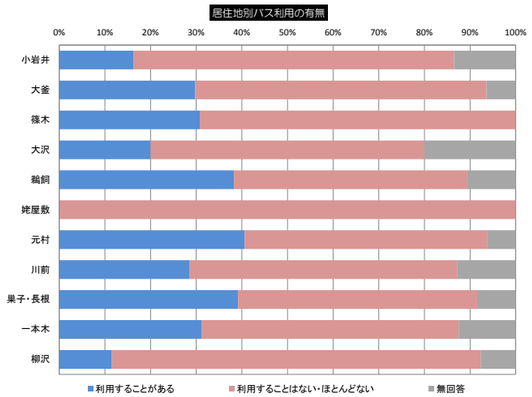


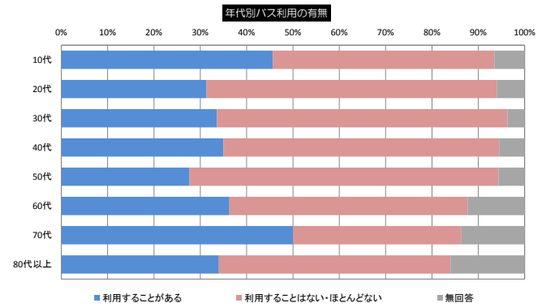


盛岡市中心部へのバス利用について

バス利用の有無

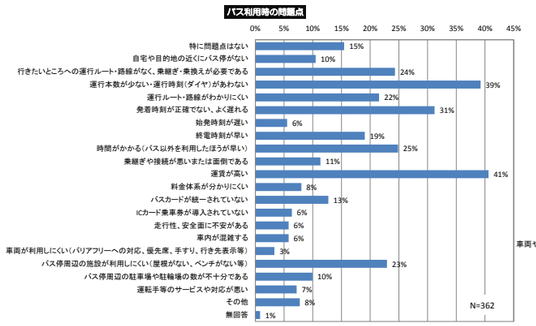
- 滝沢市～盛岡市中心部間の移動においてバスを利用する人は全体の 36%程度である。
- 年代別にみると、10 代および 70 代でバスの利用率が比較的高い。

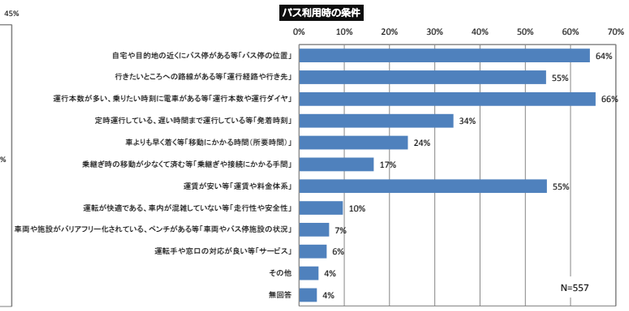




バス利用時の問題点・バスを利用していない人の条件

- バスを利用している人の約４割が、「運賃」や「運行本数・運行時刻（ダイヤ）」を問題として挙げているが、感じている問題点は多岐に分散している。
- バスを利用していない人の半数以上が、「運行本数や運行ダイヤ」、「バス停の位置」、「運行経路や行き先」、「運賃や料金体系」をバス利用の条件に挙げている。





市民アンケートから見える利用実態・問題点

目的地が明確

- 滝沢市民の行動は、通勤であれば盛岡市内、買い物であれば、青山・みたけ周辺、巣子・長根、元村、鵜飼地区と限定された場所が目的地となっている。

限定的な公共交通の利用者

- 鉄道利用をすることがあるとする割合は、10～20 歳台の若年層が比較的高い。また地区別の利用状況をみると、駅周辺居住者に限られている。
- バスを利用することがあるとする割合は、高齢者と若年層が比較的多く、バスは自動車の手段をとれない利用者層の重要な交通手段となっている。

鉄道、バスとも運賃と運行本数・時刻が問題

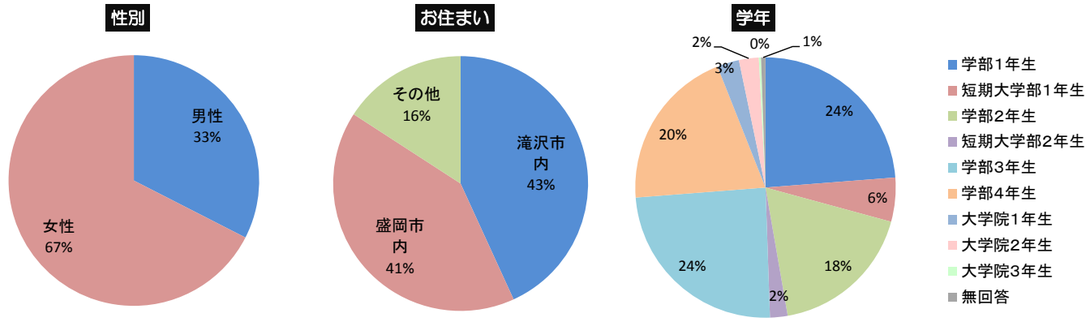
- いずれも「運賃が高いこと」「運行本数・時刻があわないこと」を問題視されている。
- 鉄道に比べ、バスの方が問題点が多岐に渡っている。

②大学生アンケート

調査概要

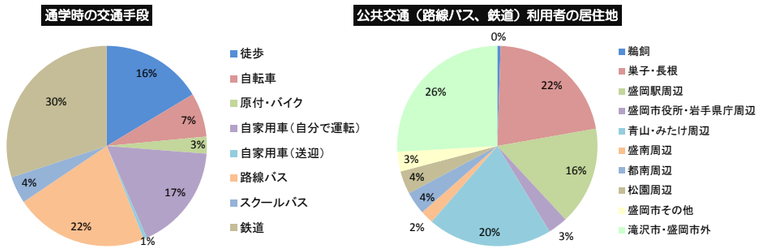
対象者	滝沢市内に立地する２大学（岩手県立大学、盛岡大学）の大学生
調査内容	日常の主たる行動目的とその交通手段、また、公共交通に対する考えや今後の公共交通利用のあり方などについてアンケートを実施する。
調査方法	WEB フォーマット（新規作成）の選択肢（一部記述式）へ入力する WEB 方式（自動集計機能付）とする。 WEB アンケートの配信については、滝沢市が各大学へ依頼する。
回収数	N=366 票　内訳）岩手県立大学：310 票　盛岡大学：56 票

主な回答者属性



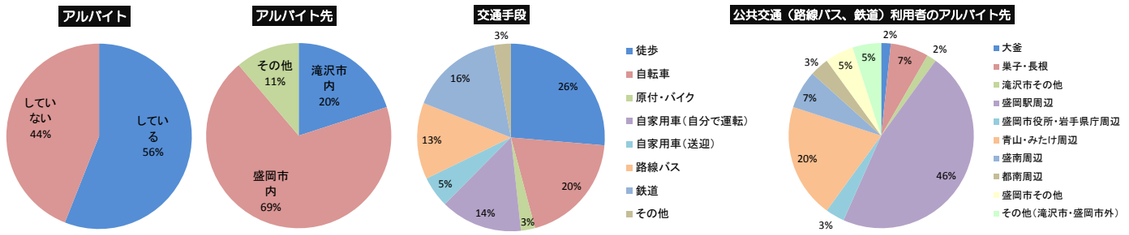
通学の行動

- 通学時の交通手段は、「鉄道」が約30%、「路線バス」が約 20%と、公共交通利用者が全体の半数を占める。公共交通利用者の居住地は、巣子・長根地区、青山・みたけ周辺、盛岡駅周辺、滝沢市・盛岡市外が多い。
- 公共交通以外の交通手段では、「自家用車（自分で運転）」が最も多い。



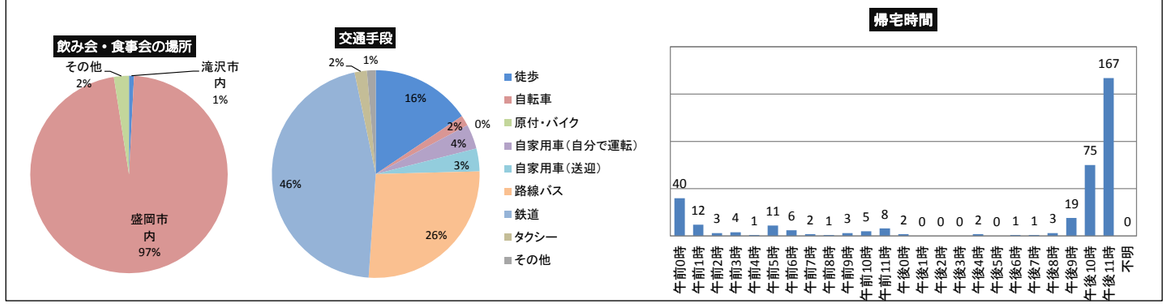
アルバイトの状況

- アルバイトをしている大学生は、全体の 56%（N=205）であり、アルバイト先の約７割が盛岡市内である。
- アルバイト先までの交通手段は「徒歩」、「自転車」が約半数を占め、公共交通（路線バス、鉄道）の利用者は３割程度である。公共交通利用者のアルバイト先の約半数は、盛岡駅周辺、盛岡市役所・岩手県庁周辺となっている。



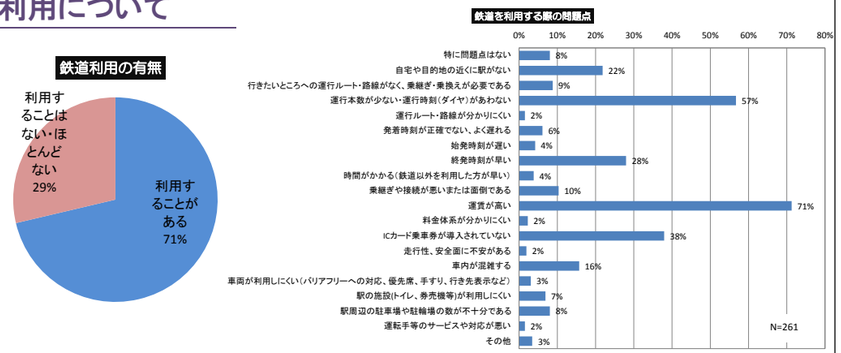
飲み会・食事会の状況

- 飲み会・食事会の場所は、ほとんどが盛岡駅周辺である。
- 約半数が鉄道を利用し、路線バスをあわせると公共交通の利用者は７割以上となる。



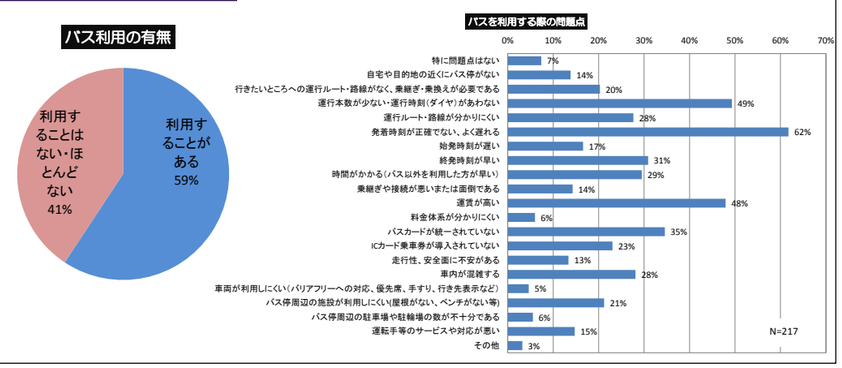
盛岡市中心部への鉄道利用について

- 滝沢市～盛岡市中心部間の移動において鉄道を利用する人は全体の約７割を占める。
- 鉄道を利用している人の約７割が、「運賃」に問題を感じている。また、「IC カードが導入されていない」を問題点として挙げた人が約 4 割いる。



盛岡市中心部へのバス利用について

- 滝沢市～盛岡市中心部間の移動においてバスを利用する人は全体の約６割を占める。
- バスを利用している人の約６割が「発着時刻が正確でない、よく遅れる」を問題に挙げ、最も指摘が多いものの、問題点が多岐に分散している。



大学生アンケートから見える利用実態・問題点

大学～盛岡市中心部間の移動が多い

- 滝沢市居住の学生が約半数となる一方、アルバイト先や飲食は盛岡市へ移動する学生が多数を占めている。

大学生は公共交通の利用割合が高い

- 通学手段でも公共交通が半数以上を占めるように、大学生にとって公共交通は必要不可欠な交通手段となっている。
- また、通学のみでなく、アルバイト、飲み会・食事会でも多くの人が公共交通を利用している。

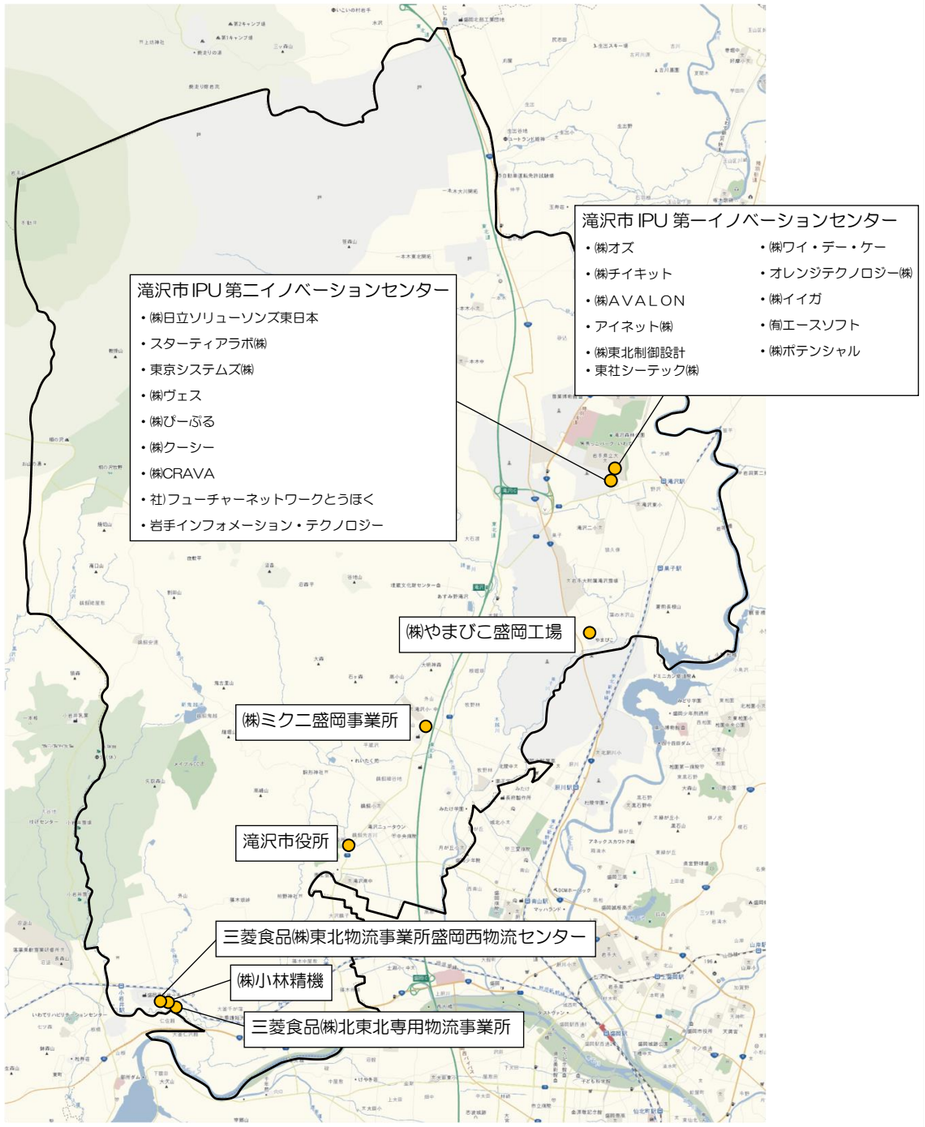
高い運賃、発着時間の遅れが問題

- 鉄道、バスともに問題点として運賃が高いことが挙げられているほか、バスでは発着時刻の不正確性が問題となっている。

③企業アンケート

調査概要

対象者	滝沢市内に立地する各企業（滝沢市役所及びその他の主要 5 企業並びに滝沢市 IPU イノベーションセンター入居の 20 企業）
調査内容	通勤者の交通手段、また、公共交通に対する考えや今後の公共交通利用のあり方などについてアンケートを実施する。
調査方法	選択肢（一部記述式）を記載した設問用紙への記入方式とする。 発送及び回収は滝沢市が行う。
回収数	N=13 社



調査結果

- いずれの企業も、従業員の半数程度が滝沢市外からの通勤者である。
- 主な交通手段は「自家用車」であり、駅やバス停が近くにない等の立地上の課題、残業や夜勤対応など勤務形態上の課題が挙げられている。
- 通勤時の交通手段としての公共交通利用について、7 社が「積極的に進めたい」「できれば進めたい」「市や交通事業者の協力が得られれば進めたい」と回答しているが、「運行本数が少ないこと」や「終電が早いこと」が問題となっている。
- 公共交通施策への協力意向について、「積極的に協力したい」「できれば協力したい」と回答した企業は８社である。

No.	企業名	従業員数				通勤実態										公共交通利用促進に関する企業の意向・考え						その他、公共交通に関する意見
						交通手段別従業員数									現在の通勤実態について感じている問題点	通勤時の交通手段としての公共交通利用の意向		企業として実施・検討している公共交通利用促進に関連した取組や自家用車通勤抑制に向けた取組	公共交通利用（利用促進）に際しての問題点や利用（利用促進）するための条件	公共交通利用施策への協力意向		
		合計	滝沢市内居住	盛岡市居住	その他居住	徒歩	自転車	原付・バイク	自家用車（自分で運転）	自家用車（送迎）	路線バス	送迎バス	鉄道	その他			理由				理由	
1	A社	470	255	199	16	16	7	1	432	0	11	0	0	3	-	できれば進めたい	-	毎年減クルマウィークを実施している	-	積極的に協力したい	-	-
2	B社	612	303	226	83	10	5	10	582	0	5	0	0	0	公共（バス）がもう少し利用が便利になれば利用が進むと考えています。	市や交通事業者の協力が得られれば進めたい	-	-	運行が増えれば利用が進むと考えます	できれば協力したい	-	-
3	C社	358	131	171	56	0	0	0	200	0	0	100	0	0	-	今のままでよい	通勤バス6路線充備のため	通勤バスの積極的利用の推進	-	わからない	-	-
4	D社	106	45	33	28	2	3	0	100	0	0	0	1	0	車通勤者のための駐車場確保	今のままでよい	-	特になし	近くに小岩井駅があるが、本数が少なく、終電も早い	わからない	現行のシフト等を勘案すると、車通勤の方が便利であるため	-
5	E社	常駐者はいない				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6	F社	96	33	50	13	3	0	0	92	0	0	0	1	0	ほとんどの社員が車通勤ですが、駐車場等の物理的な問題点はありません。 社員一人一人の安全運転の意識づけを重要視しています。	-	公共交通機関が充実すれば考える者もいるかと思いますが、勤務形態や通勤距離を考えると、車通勤は仕方がないと考えます。	企業としての取り組みはしておりませんが、滝沢市からの減クルマキャンペーン等には、できる範囲で参加しております。しかし、可能な者が自動車通勤にする等の為、公共交通利用促進とはなっておりません。	最寄駅からの運行本数が少なく、夜勤者、残業者の時間を考えると、運行時間内では対応できない。	わからない	-	-
7	G社	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	-	市や交通事業者の協力が得られれば進めたい	-	-	-	わからない	-	-
8	H社	5	4	1	0	0	1	0	4	0	0	0	0	0	-	今のままでよい	現場に行くのに車が必要。 事務でも銀行や郵便局に行くことが多いので車が必要。	-	現場に行くのに車が必要なことが多い。 事務でも銀行や郵便局に行くことが多いので車が必要。	できれば協力したい	-	-
9	I社	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	鉄道が災害等で不通となった場合の代替策の検討。	積極的に進めたい	-	自家用車通勤は禁止としています。 公共交通機関の利用については、通勤費としてかかった費用全額を支給しています。	特になし	積極的に協力したい	-	-
10	J社	15	8	7	0	2	1	0	0	0	9	0	2	0	バス、電車の本数が足りない。 雪がふる、冬の間だけでも増やしてほしい	できれば進めたい	車、バイク等による事故を防止できる	-	バス、電車の本数が足りない。雪がふる、冬の間だけでも増やしてほしい	できれば協力したい	-	-
11	K社	3	2	1	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	公共交通機関を利用したくても、本数が少ない、最寄り駅・バス停が遠い等の課題が多い	積極的に進めたい	当社は原則、公共交通機関利用となっている。利用を拡大できる環境整備を関係者にはお願いしたい。	特になし	鉄道、バス共に本数、路線が少ない	積極的に協力したい	事故等を考えた場合、公共交通機関利用が望ましいと思われるので	首都圏と較べるのは無理がありますが、やはり路線の拡大、本数の増大が必要だと思います
12	L社	6	2	4	0	1	0	0	5	0	0	0	0	0	-	進めたくない	時間の制約があるため	-	-	できれば協力したい	-	-
13	M社	12	2	10	0	0	0	0	8	0	0	0	4	0	公共交通機関がやっている時間を過ぎて勤務するケースがあるので車通勤が多い	できれば進めたい	自家用車以外の選択肢を増やしたいので	-	電車、バスともに終電が早い	できれば協力したい	-	-

企業アンケートから見える利用実態・問題点

滝沢市外からの通勤者が多い

- いずれの企業も、従業員の半数程度が滝沢市外からの通勤者であり、なかでも盛岡市からの通勤者が多い。

企業立地、勤務形態上の制約から公共交通利用は進んでいない

- 公共交通による通勤を促進した意向があるものの、実態は自動車利用が非常に多い。
- 駅やバス停が近くにない、残業や夜勤に対応できない等が主な理由となっている。

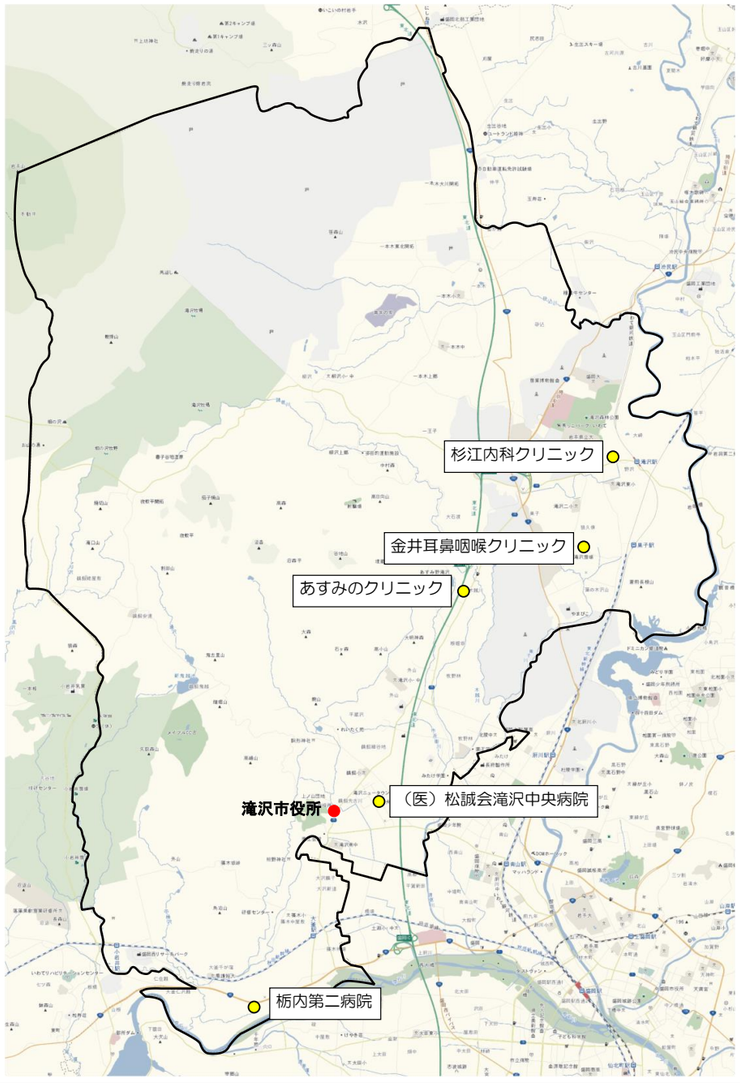
公共交通利用促進への協力意向はある

- 多くの企業が、公共交通による通勤の促進意向、公共交通利用促進施策への協力意向を示している。

④通院者アンケート

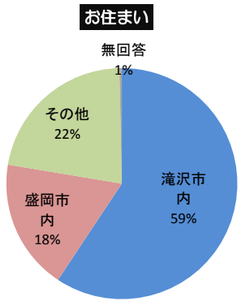
調査概要

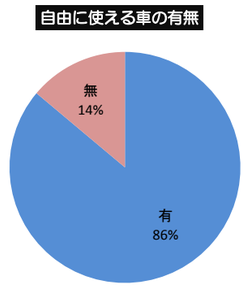
対象者	滝沢市内に立地する主要な 5 つの病院への通院者
調査内容	交通手段、また、公共交通に対する考えや今後の公共交通利用のあり方などについてアンケートを実施する。
調査方法･調査日	各病院での調査員による聞取り方式とする。 調査実施日は平日の 1 日とする。
回収数	N=295 票 内訳）滝沢中央病院：74 票　栃内第二病院：56 票 あすみのクリニック：77 票　金井耳鼻咽喉科クリニック：57 票 杉江内科クリニック：31 票

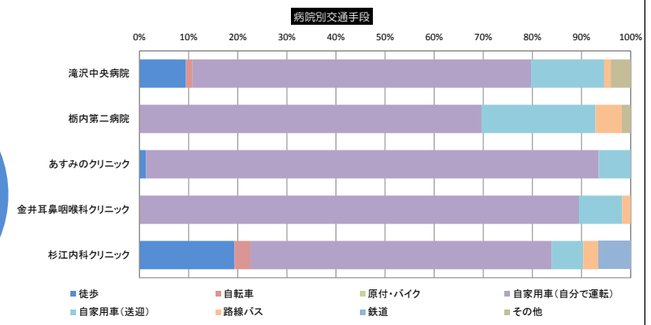


病院利用の状況

- いずれの病院も「自家用車」の利用が非常多い傾向である。
- 杉江内科クリニックは「徒歩」が多い一方で、滝沢駅が近いため「鉄道」利用が多く、栃内第二病院は国道沿いという立地から「路線バス」利用が比較的多い。

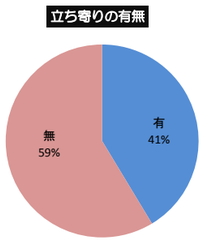


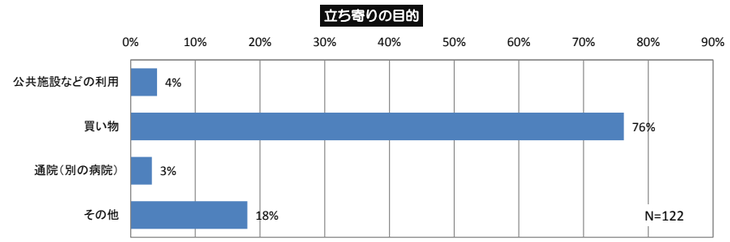




立ち寄りの有無

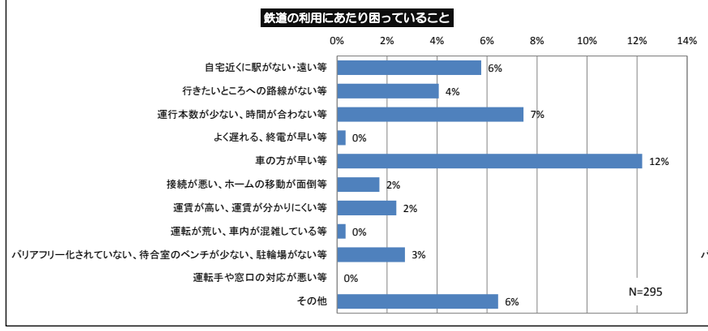
- 病院利用時に立ち寄りがあると回答した人は 4 割程度である。
- 立ち寄り目的は「買い物」が約 8 割を占める。

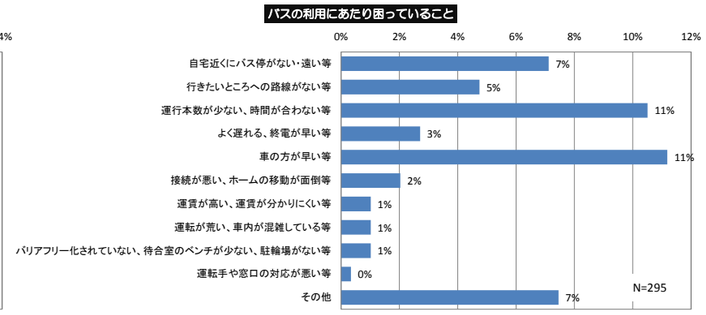




公共交通の問題点

- 鉄道利用時の問題点として、「車の方が早い」という回答が最も多く、次いで「運行本数が少ない」、「近くに駅がない」という回答多い。
- 路線バス利用時の問題点として、「車の方が早い」、「運行本数が少ない」という回答が多く、次いで「近くにバス停がない」が多い。





通院者アンケートから見える利用実態･問題点

通院手段のほとんどが自家用車利用

- 近隣に居住する市民が、近傍の病院に通院する手段として、自動車への依存度は極めて高い。
- ただし、鉄道駅に近接する病院については、鉄道利用が高くなる傾向も見られる。

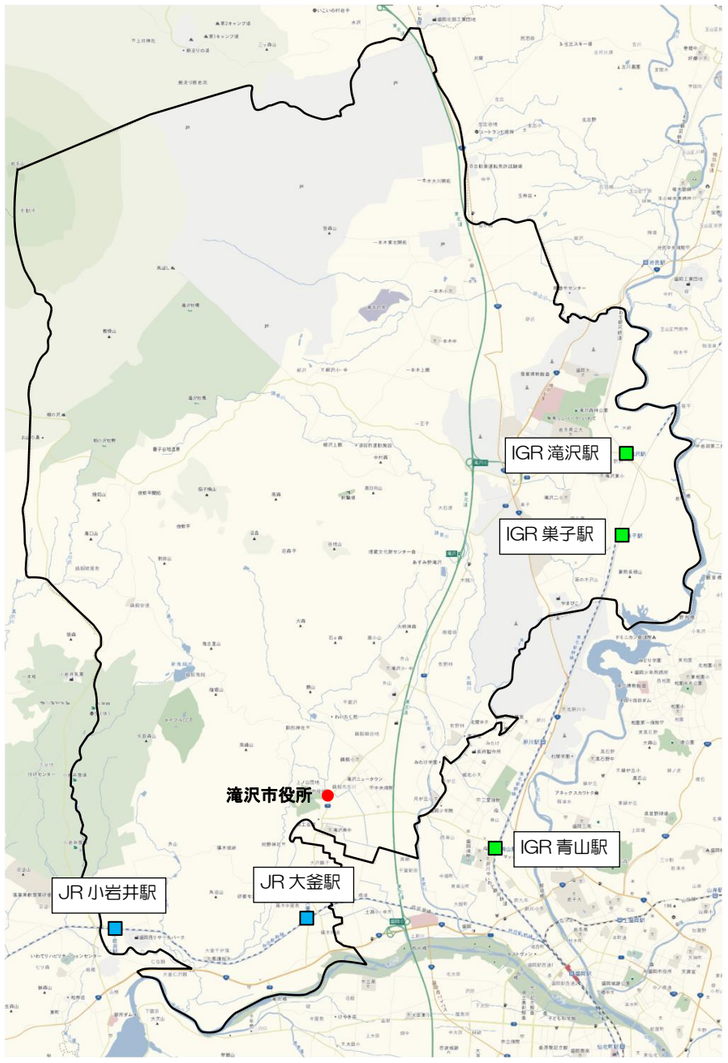
現状の公共交通サービスが低い

- 公共交通の問題点として車の方が早いと回答した人が最も多く、現状の公共交通サービスが低いものと考えられる。

⑤鉄道利用者アンケート

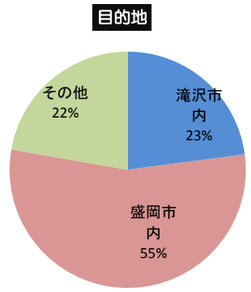
調査概要

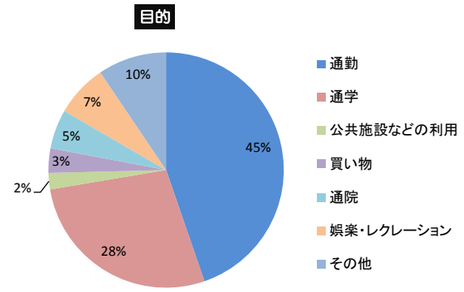
対象者	滝沢市内の 4 駅（JR 大釜駅、JR 小岩井駅、IGR 巣子駅、IGR 滝沢駅）に加え、滝沢市に近接する IGR 青山駅（盛岡市）の計 5 駅の鉄道利用者
調査内容	利用目的や行先、また、公共交通に対する考えや今後の公共交通利用のあり方などについてアンケートを実施する。
調査方法・調査日	各駅での調査員による聞取り方式とする。 調査実施日は平日の 1 日とする。
回収数	N=445 票 内訳）JR 大釜駅：59 票　JR 小岩井駅：55 票 IGR 青山駅：135 票　IGR 巣子駅：103 票　IGR 滝沢駅：93 票

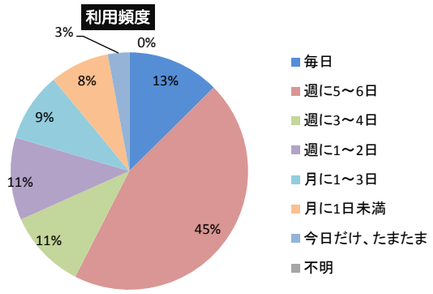


目的・利用頻度

- 約半数が盛岡市内を目的地とし、鉄道を利用している。
- 全体の 7 割以上が、「通勤・通学」を目的とした利用であり、「毎日」もしくは「週に 5～6 日」の利用が約 6 割にのぼる。

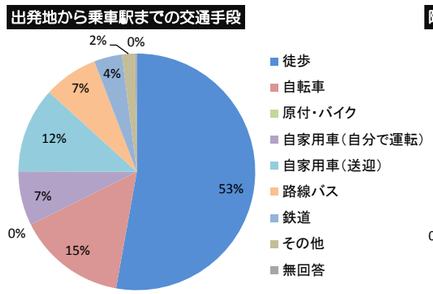


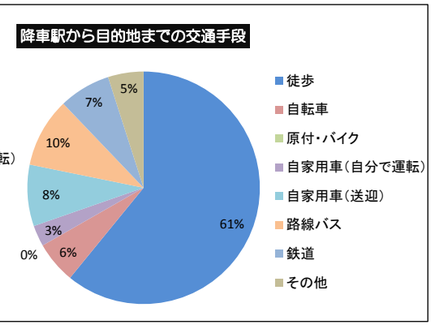




アクセス手段・イグレス手段

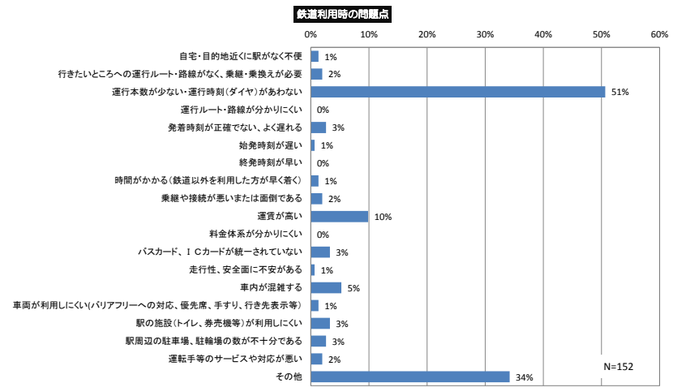
- 出発地から乗車駅までの交通手段は、「徒歩」、「自転車」が全体の約 7 割を占め、「自家用車（自分で運転、送迎含む）」の利用は 2 割程度、「公共交通（路線バス、鉄道）」の利用が 1 割程度である。
- 降車駅から目的地までの交通手段は、「徒歩」が全体の約 6 割を占め、「公共交通（路線バス、鉄道）」の利用は 2 割程度である。





鉄道利用時の問題点

- 鉄道利用における問題点は、「運行本数・運行時刻があわない」に集中している。



鉄道利用者アンケートから見える利用実態・問題点

盛岡市方面への日常の交通手段として利用

- 鉄道利用は通勤・通学利用に特化されており、日常的な利用者が非常に多い。

アクセス手段は徒歩・自転車が多数を占める

- 現状は徒歩手段のアクセスが非常に多いが、自転車によるアクセスも比較的多くなっている。
- 一部、駐車場、駐輪場が不十分という問題も挙がっている。

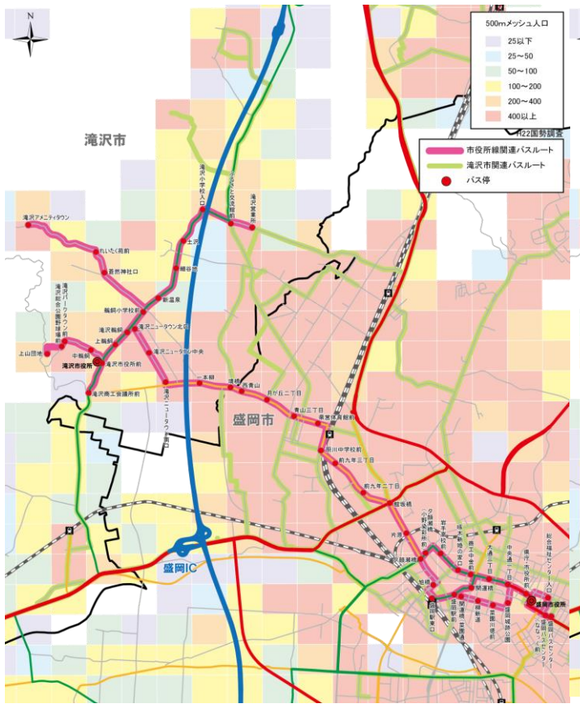
問題点は運行本数・時刻があわないことに集中

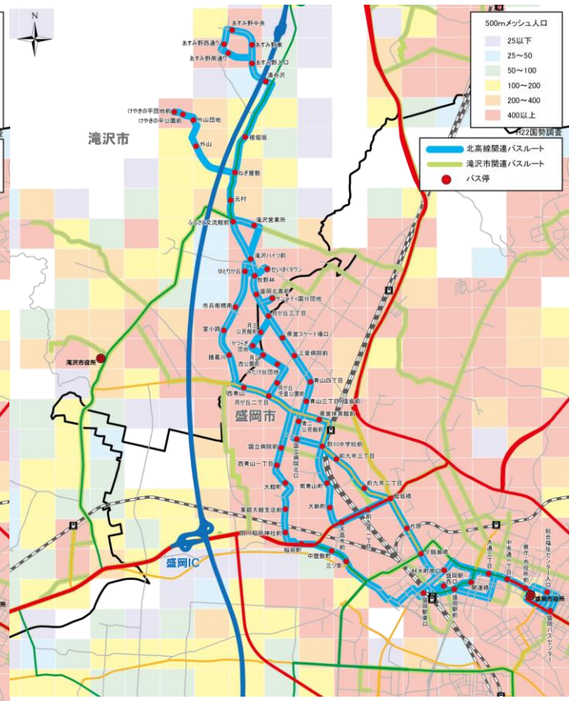
- 問題点として運行本数が少ないことに集中しており、日常的な交通手段として利用しているものの、さらなる利便性の向上が望まれていることがうかがえる。

⑥路線バス利用者アンケート

調査概要

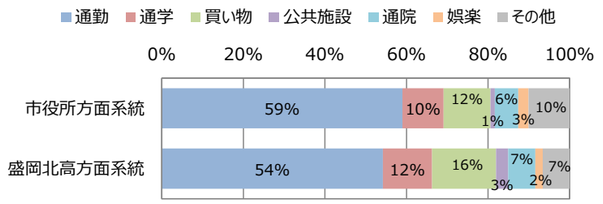
対象者	滝沢市内を運行する路線バス（岩手県交通）のうち、盛岡駅方面への主要アクセス路線（盛岡駅～滝沢市役所もしくは岩手県交通滝沢営業所）の約 140 便のバス利用者（滝沢市内乗降者）
調査内容	利用目的や乗降バス停を主とした簡易的なアンケートを実施する。
調査方法･調査日	選択肢（一部記述式）を記載した設問用紙への記入方式とし、各バスに調査員が乗り込み、設問用紙を配布、回収する。 調査実施日は平日の 1 日とする。
回収数	N=458 票

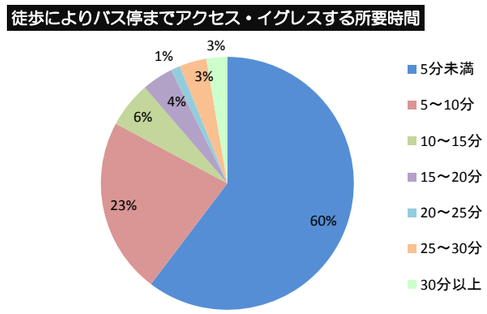




バスの利用状況

- 路線バスの利用目的は、いずれの系統も通勤目的が半数を超えている。
- 徒歩によりバス停までアクセス・イグレスする所要時間は 10 分未満が約８割を占めているが、15 分以上も１割を超えている

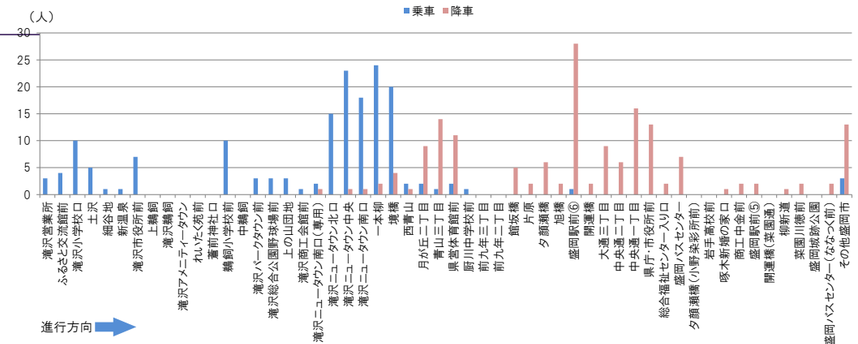




乗降状況

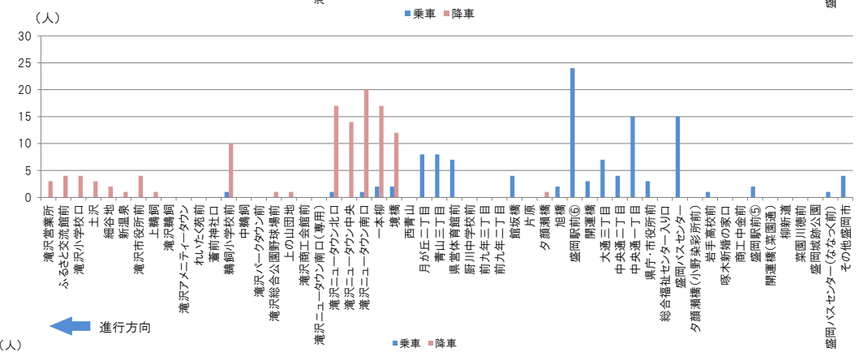
市役所方面系統

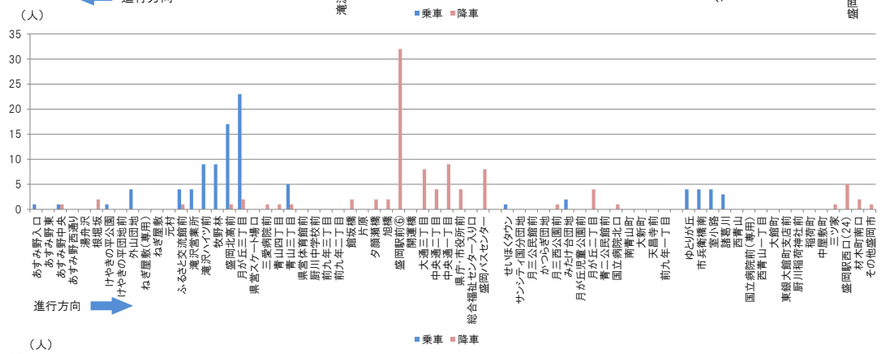
- 盛岡駅行のバスへの乗車は始発バス停付近、滝沢ニュータウン付近で多く、降車は盛岡駅前及び中央通り１丁目付近で多い。また、滝沢行のバスへの乗車は盛岡バスセンター、中央通１丁目及び盛岡駅前で多く、降車は滝沢ニュータウン付近で多い。

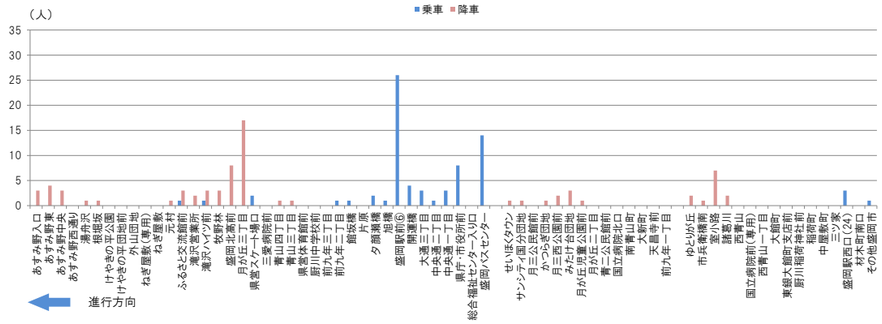


盛岡北高方面系統

- 盛岡駅行のバスへの乗車はふるさと交流館～月が丘三丁目で多く、降車は盛岡駅前で多い。また、あすみ野行のバスへの乗車は盛岡駅前、盛岡バスセンターで多く、降車は月が丘三丁目で多い。







バス利用状況調査から見える利用実態･問題点

通勤･通学目的の利用が主

- いずれの系統も通勤・通学目的の日常的な利用が多数を占めている。

バス停ごとの乗降状況に大きな差

- バス停により乗降状況に大きな差があり、利用が多いバス停は限定される。

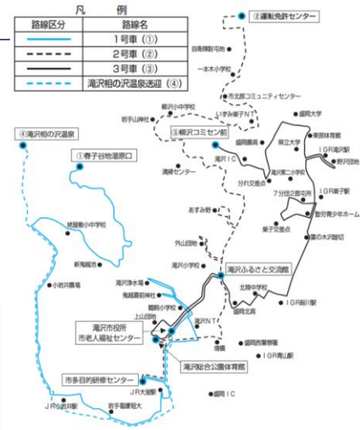
⑦福祉バス利用者アンケート

調査概要

対象者	滝沢市内を運行する福祉バス（運行者：滝沢市）3 系統のバス利用者
調査内容	行動目的や行先、また、公共交通に対する考えや今後の公共交通利用のあり方などについてアンケートを実施する。
調査方法･調査日	各バス車内での調査員による聞取り方式とする。 調査実施日は平日の 1 日とする。
回収数	N=39 票 内訳） 1 号車：14 票　 2 号車：11 票　 3 号車：10 票 市役所での乗降者：10 票

- 1 号車利用者は睦大学を目的地としている方が多く、2 号車・3 号車は公共施設利用者の利用が多い。
- 乗車バス停まで、降車バス停までは徒歩手段が多く、一部でバスの乗継利用が見られる。
- 出発地からバス停まで、バス停から目的地までの所要時間は大部分が 10 分を下回っている。
- 福祉バスの問題点として、「本数が少ない」ことと「路線が無い・乗り継ぎが必要」と挙げられる方が複数いるが、それ以外の問題点は挙げられていない。

号車	対象区間	行き	帰り
1 号車	春子谷地湿原口前～市役所	14 人	9 人
2 号車	運転免許センターバス停～市多目的研修センター	9 人	6 人
3 号車	柳沢コミセン前～市役所	8 人	4 人



福祉バス利用者アンケートから見える利用実態･問題点

利用者は少数かつ限定的

- 往復あわせて 50 名程度の利用にとどまっている。
- 利用者は 60 代以上に限定されており、睦大学、公共施設利用目的での利用が主である。

no	調査路線	性別	年代	お住まい	職業	運転免許有無	車の有無	送迎できる家族の有無	目的地	利用目的	福祉バスの利用頻度	乗車バス停情報			降車バス停情報			福祉バスの問題点																		調査時刻
												交通手段	バス停	所要時間（分）	交通手段	バス停	所要時間（分）	近くにバス停が無い	路線が無い、乗継必要	本数少ない	路線がわかりにくい	時刻が正確でない	始発が遅い	終発が早い	時間がかかる	乗り継ぎが悪い	運賃が高い	料金がわかりにくい	バスカードＩＣカードが不統一	走行性安全面に不安	社内混雑	車両が利用しにくい	バス停施設が利用しにくい	駐車場、駐輪場不十分	運転手の対応悪い	19.その他	
1	市役所	女性	70代	元村	無職	免許有	車有	送迎家族有	元村	睦大学	週に 2 回	徒歩で	市役所	10	徒歩で	牧野林	10																			特にありません	14:50
2	市役所	女性	80代以上	元村	無職	免許無	車無	送迎家族有	元村	家に帰る	週に 2 回	徒歩で	市役所	1	徒歩で	けやきのきだいら団地	3																				15:00
3	市役所	女性	70代	大釜	無職	免許無	車無	送迎家族無	大釜	睦大学	雨と雪の時	徒歩で	大釜	5	徒歩で	市役所	1			○																	14:50
4	市役所	女性	80代以上	鵜飼	無職	免許無	車無	送迎家族有	鵜飼	お山の湯	月に 2 回	徒歩で	市役所	5	徒歩で	お山の湯	1																				9:50
5	1号車	男性	60代	姥屋敷	その他	免許有	車無	送迎家族無	前潟イオン	買い物	月に 1 回	徒歩で	姥屋敷トラクター組合倉庫	5	徒歩で	大釜バス停	15		○																		8:50
6	1号車	女性	80代以上	小岩井	無職	免許無	車無	送迎家族無	鵜飼	お山の湯	月に 2 回	徒歩で	小岩井	15	徒歩で	お山の湯	1			○															毎日運行してほしい。市役所の次にもう一度小岩井に停車してほしい	8:55
7	1号車	男性	70代	小岩井	無職	免許無	車無	送迎家族無	鵜飼	睦大学	月に 3 回	徒歩で	小岩井	7	徒歩で	市役所	1			○															お昼過ぎあたりにあれば良い	8:59
8	1号車	女性	80代以上	小岩井	無職	免許無	車無	送迎家族有	鵜飼	睦大学	月に 3 回	徒歩で	小岩井	1	徒歩で	市役所	1			○															お昼過ぎあたりにあれば良い	9:03
9	1号車	女性	70代	小岩井	無職	免許無	車無	送迎家族無	鵜飼	睦大学	月に 2 回	徒歩で	小岩井	2	徒歩で	市役所	1			○																	9:06
10	1号車	女性	70代	大釜	無職	免許無	車無	送迎家族無	青山・みたけ	通院	月に 1 回	徒歩で	みどり団地	3	バスで	滝沢ニュータウン南口	20		○																		9:08
11	1号車	男性	60代	大釜	無職	免許無	車無	送迎家族無	鵜飼	お山の湯	月に 2 回	徒歩で	仁沢瀬	20	徒歩で	お山の湯	1																				9:11
12	1号車	女性	80代以上	大釜	無職	免許無	車無	送迎家族無	鵜飼	睦大学	月に 4 回	徒歩で	日向	1	徒歩で	市役所	1																				9:13
13	1号車	女性	70代	大釜	無職	免許無	車無	送迎家族無	青山・みたけ	通院	月に 4 回	徒歩で	大釜	3	バスで	滝沢ニュータウン南口	10																				9:15
14	1号車	女性	70代	大釜	無職	免許無	車無	送迎家族無	鵜飼	睦大学	天気の悪い日だけ	徒歩で	大釜コミュニティ消防センター	6	徒歩で	市役所	1																				9:18
15	1号車	女性	70代	大釜	無職	免許無	車無	送迎家族無	鵜飼	お山の湯	月に 4 回	徒歩で	大釜コミュニティ消防センター	5	徒歩で	お山の湯	1																				9:20
16	1号車	女性	70代	大釜	無職	免許無	車無	送迎家族無	鵜飼	お山の湯	月に 4 回	徒歩で	大釜コミュニティ消防センター	4	徒歩で	お山の湯	1																				9:22
17	1号車	女性	70代	篠木	無職	免許無	車無	送迎家族有	鵜飼	睦大学	月に 4 回	徒歩で	大釜駅	1	徒歩で	市役所	1																				9:25
18	1号車	女性	70代	大沢	無職	免許無	車無	送迎家族有	鵜飼	睦大学	月に 4 回	徒歩で	滝沢アメニティタウン	4	徒歩で	市役所	1																				9:30
19	2号車	女性	60代	一本木	主婦	免許無	車無	送迎家族無	鵜飼	公共施設	週に 1 回	徒歩で	免許センター前	10	徒歩で	福祉センター	5																		福祉バスはありがたい	8:15
20	2号車	女性	60代	一本木	無職	免許有	車無	送迎家族無	鵜飼	公共施設	月に 2 回	徒歩で	一本木郵便局バス	3	徒歩で	福祉センター	5																				8:25
21	2号車	女性	60代	一本木	主婦	免許無	車無	送迎家族無	鵜飼	公共施設	月に 6 回	徒歩で	一本木	10	徒歩で	福祉センター	5																				8:25
22	2号車	女性	70代	一本木	自営業	免許無	車無	送迎家族有	鵜飼	公共施設	週に 1 回	徒歩で	一本木小学校	5	徒歩で	福祉センター	5																				8:35
23	2号車	女性	70代	一本木	主婦	免許無	車無	送迎家族無	鵜飼	公共施設	週に 1 回	徒歩で	一本木	2	徒歩で	市役所	5																				8:45
24	2号車	女性	80代以上	柳沢	主婦	免許無	車無	送迎家族有	鵜飼	公共施設	月に 3 回	徒歩で	上里大川Ｔ字路	1	徒歩で	市役所	5																		助かります	8:50
25	2号車	女性	80代以上	一本木	自営業	免許無	車無	送迎家族無	鵜飼	公共施設	週に 4 回	徒歩で	大石渡十字路	10	徒歩で	市役所	5																				9:00
26	2号車	女性	80代以上	巣子・長根	無職	免許無	車無	送迎家族無	鵜飼	公共施設	週に 1 回	徒歩で	巣子西口	5	徒歩で	市役所	5																				9:10
27	2号車	女性	80代以上	鵜飼	主婦	免許無	車無	送迎家族無	鵜飼	公共施設	月に 3 回	徒歩で	市役所	1	徒歩で	一本柳	15																				15:00
28	2号車	女性	70代	一本木	主婦	免許無	車無	送迎家族有	一本木	公共施設	週に 1 回	徒歩で	市役所	1	徒歩で	けやきのきだいら団地	10																				15:15
29	2号車	女性	60代	一本木	自営業	免許無	車無	送迎家族有	一本木	公共施設	週に 2 回	徒歩で	市役所	1	徒歩で	一本木郵便局	1																				15:32
30	3号車	女性	80代以上	川前	主婦	免許無	車無	送迎家族無	鵜飼	公共施設	月に 4 回	徒歩で	野沢団地	5	徒歩で	市役所	5			○															水曜日の運行本数が少ない	8:45
31	3号車	女性	70代	川前	主婦	免許無	車有	送迎家族有	鵜飼	お山の湯	週に 1 回	徒歩で	野沢団地	7	徒歩で	お山の湯	20			○															乗り換えがなくなったら、もっと良い	8:45
32	3号車	女性	70代	川前	主婦	免許無	車無	送迎家族無	鵜飼	公共施設	週に 1 回	徒歩で	滝沢駅	5	徒歩で	市役所	2			○																	8:50
33	3号車	女性	70代	巣子・長根	主婦	免許無	車無	送迎家族無	鵜飼	公共施設	月に 3 回	徒歩で	滝沢駅	10	徒歩で	市役所	3			○																	8:50
34	3号車	男性	60代	大沢	会社員	免許有	車無	送迎家族無	鵜飼	公共施設	週に 3 回	徒歩で	巣子中央	3	徒歩で	市役所	3			○																	8:55
35	3号車	女性	70代	巣子・長根	主婦	免許無	車無	送迎家族無	鵜飼	娯楽	週に 1 回	徒歩で	中巣子	3	徒歩で	市役所	2			○																	9:00
36	3号車	女性	70代	巣子・長根	主婦	免許無	車無	送迎家族無	鵜飼	娯楽	月に 2 回	徒歩で	滝沢	2	徒歩で	市役所	2			○															水曜日に運行本数が少ない	9:10
37	3号車	男性	80代以上	巣子・長根	無職	免許無	車無	送迎家族無	鵜飼	お山の湯	週に 2 回	徒歩で	巣子中央	3	徒歩で	お山の湯	20																		とても良いです。いつも感謝しています	9:20
38	3号車	女性	70代	川前	主婦	免許無	車無	送迎家族無	川前	帰宅	週に 1 回	バスで	市役所	30	徒歩で	国分団地	5																				15:20
39	3号車	男性	70代	青山・みたけ	無職	免許有	車無	送迎家族無	青山・みたけ	帰宅	週に 2 回	徒歩で	市役所	2	徒歩で	みたけ6丁目	7										○								前は無料だった	15:30

⑧まとめ

公共交通利用の実態・問題点

滝沢市民の日常の行動圏

通勤・通学、買い物など、盛岡市への日常的な行き来が存在

- 滝沢市～盛岡市間では通勤や日常的な買い物など、相互での日常的な行き来が存在しているほか、買い物や娯楽レクレーション目的で、月に１日以上は盛岡市中心部へ出かけている。
- 大学生の約 4 割は盛岡市居住であるほか、アルバイトや飲み会・食事会では盛岡市へ移動する学生が多数。
- 滝沢市に立地する主な企業では、盛岡市居住の従業員が多い。

主要企業の通勤実態・協力意向

企業立地、勤務形態の制約から公共交通利用はされていない

- ほとんどの通勤手段が自家用車であり、近くに駅やバス停がない、終電が早い等の理由から、公共交通は利用されていない。

公共交通利用促進への協力意向はある

- 公共交通施策への協力意向について、「積極的に協力したい」「できれば協力したい」と回答した企業は 13 社中８社。

福祉バスの利用状況

- 利用者は 60 代以上に限定されている。
- 睦大学、公共施設利用目的での利用が主。

鉄道の利用状況

【鉄道利用者の属性】

- 滝沢市民の約 2 割が滝沢市～盛岡市中心部間の移動で利用。駅周辺地区（小岩井、大釜、篠木、川前、巣子・長根地区）の居住者に利用が偏っているほか、10～20 代の利用が比較的多い。
- 大学生の約７割が、滝沢市～盛岡市中心部間の移動で利用。
- 鉄道利用者の半数が盛岡市内を目的地としている。また、通勤・通学目的の日常的な利用が約７割。

【アクセス・イグレス手段】

- 駅までのアクセス手段は、徒歩が半数、自転車が 15%、自家用車（自分で運転、送迎）が 20%。駅からのイグレス手段は、徒歩が６割、公共交通が２割。

【利用時の問題点】

- 市民、大学生とも「運賃が高い」が最上位、次いで「運行本数・運行時刻（ダイヤ）があわない」「駅周辺の駐車場や駐輪場の数が不十分である」等が多い。
- 「運行本数・運行時刻（ダイヤ）があわない」は、日常的な利用が想定される鉄道利用者の指摘も集中している。
- 大学生や市民の 20～40 代では、「IC カード乗車券が導入されていない」への指摘が比較的多い。

【利用の条件】

- 市民、大学生とも同様の傾向で、「駅の位置」「運行本数や運行ダイヤ」「運賃や料金体系」が上位。

バスの利用状況

【バス利用者の属性】

- 滝沢市民の 36%、大学生の約６割が、滝沢市～盛岡市中心部間の移動で利用。10 代、70 代の利用が比較的多い。
- 通勤・通学目的の日常的な利用が約７割。

【アクセス・イグレス手段】

- バス停までのアクセス、イグレス手段はともに、徒歩が 8 割以上を占め、その際の所要時間は 10 分未満が約８割。

【乗降状況】

- バス停ごとの乗降人数に大きな差がみられる。

【利用時の問題点】

- 市民、大学生とも「運賃が高い」「運行本数が少ない・運行時刻（ダイヤ）があわない」の指摘が多い。
- 大学生の特徴として、「発着時刻が正確でない・よく遅れる」が最上位であるほか、「バスカードが統一されていない」「IC カード乗車券が導入されていない」の指摘が比較的多いことが挙げられる。

【利用の条件】

- 市民、大学生とも「運行本数や運行ダイヤ」「運賃や料金体系」への指摘が多い。
- 市民では、「バス停の位置」が２位となっており、鵜飼、巣子・長根、柳沢地区ではこの条件が最上位となっている。

公共交通施策の検討課題

滝沢市の公共交通施策検討の視点

①盛岡市方面への交通の機能強化

- 滝沢市～盛岡市間では通勤や通学、日常的な買い物など、相互での日常的な行き来が存在しており、これらの結びつきの維持、向上のためにも、盛岡市方面への公共交通機能の強化は重要。

②大学生の足の確保

- 通学手段でも公共交通が半数以上を占めるように、大学生にとって公共交通は必要不可欠な交通手段となっている。
- 盛岡市中心部は、大学生のアルバイトや飲み会・食事会の場所となっていることから、大学から盛岡市街地への移動の確保が重要。
- また、鉄道、バスともに問題点として運賃が高いことが挙げられていることから、学生の活動を支援する交通手段の確保の検討が必要。

③若年層をターゲットにした施策の展開

- 大学生や、免許を持たない 10～20 代は主要なターゲットとなる。
- 特有の問題点も挙げられていることから、「IC カード乗車券の導入」「バスカードの統一」「学割の強化」など、若年層の利用促進に向けた施策の検討が必要。

④企業立地に対応した公共交通網や企業との連携の検討

- 公共交通による通勤を促進したい意向があるものの、実態は自動車利用が非常に多い。
- 運行本数や終電時刻の問題が多く挙げられており、通期需要に対応した公共交通の機能強化が重要。
- 公共交通利用促進施策への協力意向が多くの企業から示されているため、企業と連携した公共交通利用促進策を検討することが重要。

⑤公共交通利用促進に向けたソフト施策の展開

- 公共交通に関する広報・PR の強化を図り、市民の意識啓発を図る。
- 特に、利用者が少ない福祉バスでは、持続可能な運行を目指した場合、利用促進による採算性確保は重要な課題。

滝沢市の公共交通機能強化の視点

○明確な目的地を念頭に置いた交通網の検討

- 滝沢市民の行動は、通勤であれば盛岡市内、買い物であれば、青山・みたけ周辺、巣子・長根、元村、鵜飼地区と限定された場所が目的地となっているため、交通手段の確保の観点で、目的地を意識した交通網の視点が重要。

【鉄道に関して】

駅アクセス圏の拡大

- 駅が立地していない地区から駅へのアクセス交通の確保・強化、乗継利便性の向上などによるアクセス圏の拡大が必要。

駅へのアクセス性の向上

- 自家用車で駅へアクセスする人のアクセス性、利便性向上に向け、パーク＆ライド駐車場の整備など、駅施設の充実が必要。
- 自転車によるアクセスをさらに促進するためにも、駐輪場の確保など自転車利用の視点に立った施策の検討が重要。

盛岡市方面への日常の交通手段としての機能強化

- 盛岡市方面への、通勤・通学での日常的な利用が多いことが想定されるが、利用者が感じる問題点は運行本数が少ないことに集中している。日常的な交通の確保として、増便や終電時刻の見直しも含めた機能強化が重要。

運賃、料金体系の再検討

- 鉄道利用者、未利用者とも「運賃」に関する問題意識が高く、更なる利用者の取り込みのためにも、料金体系の再検討が必要

【福祉バスに関して】

経路、運賃等の再検討

- 特定利用者の重要な交通手段となっているが、利用者数が非常に少ないため、存続の有無も含め、運行経路、運賃等の再検討が必要。

【バスに関して】

運賃、料金体系の再検討

- バス利用者、未利用者とも「運賃」に関する問題意識が高く、更なる利用者の取り込みのためにも、料金体系の再検討が必要。

運行本数の改善検討

- 自動車の手段をとれない高齢者や若年層にとっての重要な交通手段となっているが、運行本数が少ない点が問題点として多く挙げられており、経路と本数の改善策の検討が必要。

乗降状況を踏まえたバス系統の検討

- バスの乗降状況に応じた、バス停の集約、バス系統の見直しの検討が必要。
- バス停の廃止についてはサービス性の低下を招くため、系統の再編や快速バスの導入、幹線バス系統に接続する支線バス系統の導入などの視点も有効。

バス系統、バス停の新設の検討

- 「バス停の位置」をバス利用の条件として挙げている地区においては、居住地区の広がりや周辺施設の立地状況等を考慮した上で、バス系統やバス停の新設の検討が必要。

定時性の確保による大学生利用者の利便性の向上

- 大学発着便については、余裕を持った運行ダイヤの設定、快速バスの導入など、定時性確保によるサービス向上が必要。

施策検討時の留意点

- 上記の視点を踏まえ、滝沢市における公共交通施策を検討する必要があるが、このほかにも、上位計画との整合性や滝沢市における他政策（都市、福祉等）との関連性等を考慮する必要がある。
- また、収支を見据えた必要性の検討や持続性の検討、優先度の設定も重要な視点である。